

- ★：委員長
- ：委員
- ：事務局

第1回 馬淵川水系河川整備学識者懇談会

平成19年11月30日(金)

ユートリー 多目的中ホール

主要な意見の概要

1. 「馬淵川水系河川整備基本方針」の内容説明等について

- 1 「千石船が河岸に接岸できるようになった」というところをちょっと手直したほうがいいのではないか。「千石船に向かうはしけ船が河岸に接岸できるようになった」と言ったほうが正確かなと思う。
- ★2 この基本方針は国の審議会で決まっていますので、内容については今のような解釈をしてもらおうということで理解していただきたい。
- 3 次期見直しの際には、先生のご意見も反映させた形で修文をかけていきたいと思いません。
- 4 馬淵川の河口にサーキット大会とあるが、もう既に行われていないのではないかな。確認作業をしてほしい。
- 5 基本方針の説明がほとんど治水という印象を受けた。利水、環境についてももう少し聞きたい。
- 6 今回は、治水が柱になっているが、治水、利水、環境という章立てでいろいろこれからプレゼンテーションしていきたいと思えます。
- 7 治水は住民、全国どこに住んでいてもある一定レベルまでは守るべき安全度があるという思想があり、それを大臣がこのような考え方ではないかと示します。環境保全等はそこに住んでいる地域住民の方々や市町村長さんの意見を十分反映した形としてこの整備計画で議論していくほうがいいのではないかなということが基本的にあります。
- 8 河道掘削は部分的なのか、それとも全体的に行うものなのか。目安を教えてください。また、土砂が堆積するため、どれくらいもつのか。
- 9 河道掘削は平水位から上を掘削していきます。川底を広げると流速が落ち、川の土砂は堆積する傾向が強まります。そのため、河床の安定性に配慮し掘削することにより、流下能力を達成していきたいと思えます。
- 10 岩手県の部分の計画はどうなっているのか。
- 11 基本方針本文のとおり岩手県の方は大規模な河道掘削は行わないこととなっており、当面は災害対応的な取り組みを行っていくということで、聞いています。

- ★：委員長
- ：委員
- ：事務局

2. 「馬淵川水系河川整備学識者懇談会」について

1) スケジュールに対する意見

- 1 スケジュールの住民意見の募集が 1 ヶ月程度では住民の意見というのは掌握できないのではないか。
- 2 事務局である程度できるのではないかと見込みで作らせていただいたものだが、あくまでもスケジュール案なので、実際には変動していくものではないかと思っています。スケジュールはまた再度事務局のほうで検討させていただきたいと思います。
- 3 スケジュールに関しては結構工夫が必要だと思う。スケジュールの進め方についてぜひいろいろな工夫をしていただきたい。

2) 住民の意見集約に対する意見、質問

- 1 今後住民に説明していくとき、用語がわかりづらい気がする。用語集みたいなものを添付した方がいいのではないか。
- 2 住民の意見を聞くことは非常に難しいと思っている。
- 3 これまで進めてきた事業の過程で具体的にどうやって住民の意見を聞き、それをどのように反映させているのか教えて欲しい。
- 4 地元の町会などに事業（工事）内容について説明会等を開催しています。
- 5 河川整備とは住民の意見が反映され、それを気持ちよく使っていけるかということだと思うが、他方住民の方は無関心であったり、参加してくれないということが大体どこでも起こっていることだと思う。
- 6 住民から治水に対する要望は非常に強いものがある。美しい自然を残してほしいというのも住民の意見であるが、実際に被害を受けた人は本当に治水を望んでいる。これも大きな住民の意見だと思う。
- 7 実際に活動している団体があるため、そのような方にもこちらから働きかけたり、PRしながら声を集めることが必要ではないかと思う。
- 8 住民の意見をよく反映させたものにするのが、一番いいように思う。

3) 懇談会への想い

- 1 この懇談会で法制度の変化を踏まえてやっていくことだと思う。
- 2 環境保全ということは、そのまち自体が計画、企画を立て実行していくものだと思う。そのようなことを踏まえ、整備計画に組み入れていただくように話し合いするのが懇談会ではないか。
- 3 治水と環境の保全は決して相反するものではないと思う。今回の懇談会は川だけでなく、流域という大きな枠組みでやっているため、広い取り組みができると注目しているが、懇談会の回数が少ないのではないか。
- 4 住民からも意見を聞いていくような手法で進めていくため、大いに期待している。